

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	火災現場活動にて、隊員が鍵付き梯子を活用し降下する際に発生した転落事故
3. 体験した事例の中心的要素	火災現場活動にて、玄関底部（H 2. 7 m）から地上に降下する際に鍵付き梯子に足を掛けたところ鍵付き梯子が横に滑り、被災職員は体勢を崩し空気呼吸器を着装したまま頭部を下にした状態で地面に転落した。
4. 体験した事例の原因・理由	①玄関底部から降下する際に、鍵付き梯子の確保者がいない状態であるにもかかわらず降下しようとした。 ②応急措置として小綱等にて鍵付き梯子を固定物に結着するなどの危険防止措置を怠った。

【体験した事例の直接的な原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。行動の意志決定に問題があった。行動の実行に問題があった。
------------------	--

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 19 年 5 月 4 日 午前 11 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：2 階建て一般住宅 2 階部全面燃焼
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動初期、 [防火造建物]
8. （7 の活動中） どのような作業中に発生したか	放水活動、その他：放水作業実施中、上階（玄関底部）から下階（地上）へ移動する際に落下する。
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに 1, 2 回程度体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[46]歳、勤続年数[25]年、現場経験年数[25]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [初めて]、任務 []
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	玄関底部から鍵付き梯子を活用し降下しようとした際、転落した	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。資機材の不機能が適切だった。資機材の操作がうまくいかなかった。足元の安全が確保できていなかった。指揮者が適切に指示しなかった。後方からの監視の目が行き届いていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。その他：梯子を活用し降下するときの、確保隊員配置の徹底不足

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

し. その他の理由があった。

はい：訓練・現場活動に対する「安全管理不足」・「注意力不足」が考えられる。

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

訓練はじめ現場活動において、確保者の重要性を再認識し安全管理活動の再徹底を実施する。災害現場においては、「常に危険は滞在している・安全の基本は自己防衛である・知識、技術、体力を身につけるとともに資機材の取扱いに熟知する等」の安全管理の3原則を基本として、隊員間のコミュニケーションの確率・チーム力の向

○装備・資機材の対策について

今回の事故については、技術的に高レベルの資機材取扱いが要求されるものではない。災害現場という特異な状況下において、資機材を活用するまえに隊員自身の身体・精神等を鍛錬する必要性が明白となった。よって、日常の訓練においても「心・技・体」の「心の鍛錬」（対応力）を課題とした訓練を実施するよう努める。

○活動環境の対策について

普段の職員間のコミュニケーションの確立が、災害現場での「確保につけ」・「危ない」・「待て」等の必要な声に繋がるものとする。また、分隊長等は更に隊員の安全に関しての管理能力の向上に努める必要がある。よって今後「呼掛け呼称」・「安全呼称」・「安全管理能力の向上」に重点をおいた訓練を実施するよう努める。

○指揮・情報伝達の対策について

今以上に積極的行動を展開し、指揮・情報伝達の徹底を図る。災害現場においてよく見受けられるのは、「指示・情報伝達の一方向通行」である。送信側は伝達したつもりでも、受信側は「知らない」・「聞こえなかった」等の行き違いがエラーに繋がるケースが多い。情報伝達の手段として、主に口頭・無線・有線が考えられる。特に訓練に